

超 我 の 奉 仕
SERVICE ABOVE SELF

IBARAKI ROTARY

Club Weekly Bulletin

RI第2660地区 茨木ロータリークラブ 創立 昭和34年(1959年)12月23日



事務局 大阪府茨木市上中条一丁目9-20 茨木商工会議所 TEL (072) 622-2255 〒567-0881
例 会 毎水曜日12時30分 ホテル日航茨木大阪 茨木市中穂積一丁目1-10 TEL (072) 620-2121
会 長/秋山 勤 幹 事/松尾康弘 会報委員長/橋谷建郎
委 員/野田・倉内

姉妹クラブ: 台 北 西 北 区 扶 輪 社
双子クラブ: インドネシア・チネレRC・ジョグジャカルタRC

No.40 平成18年 5月24日

本 日 の 卓 話

5月 24日 (水)

「5分間スピーチ」

高島、大森、河原崎、戸川各会員

出席報告

第2282 回例会			前々回(第2280 回)		
会員数(免除)	出席	欠席	出席率	欠席	補正出席率
32 (8)	18	6	75 %	4	83.33 %

例会記録

第2282 回例会 5月 17日(水) 雨
ロータリーソング「手に手つないで」 斉唱
ビジターご紹介
津田ます子 様(橋本淳会員ご家族)

4月ホームクラブ皆出席

秋山、久保、松尾、長澤、中西、野田、朱、多田、高島



米寿記念出版をされて

会長の時間

秋山 勤会長

今日は、橋本淳会員が久しぶりに元気な顔を見せてくださいました。

米寿おめでとうございます。

生涯青春と題して卓話をいただく事になっておりませう。米寿を機に書かれた本も持ってきてくださいました。楽しみにしております。

考えて見ますと、橋本さんは、つくづく幸せな生活を送ってこられた方だと思います。

私には姉がおりますが、その76歳のお婆さんが、いまでも、『橋本さん元気で来たはりますか』と聞くんですから、うらやましい限りです。

橋本さんは、ご記憶にもないでしょうが、...

女学校卒業して直ぐ高島屋に入社しました。当時、スポーツマンでカッコ良く、お金持ちのぼんぼん、気品があり行動力があって、...女子社員の憧れの的だったそうです。

橋本さんが、高島屋の係長をされていたころのことです。日本が1949年RIに復帰した少し後の話で、先代の引田天光が高島屋の玩具売り場の片隅で細々と手品の実演販売をしていた頃のことです。姉は、社内結婚して早く退社しましたが、その連れ合いが、今度は橋本部長様のもと、直接お世話になったこともあるようです。近頃は、車椅子暮らしになった姉を、時々、見舞いがてらに行くと、『どうしてはりますか』と橋本さんのはなしになるのです。

幹事さんからお知らせが届いていることですが、時

問の許す方は例会後この場に残って、橋本さんとの話の続きでもして頂けたら・・・と思っています。
今日は楽しくいきましょう。

卓 話

「米寿を迎えて 生涯青春」

橋本淳会員



幹事報告

松尾康弘幹事

1、RI及び2660地区連絡事項

- 1) 次年度地区委員会委員の推薦の依頼
国際大会記念事業委員会委員に長澤会員
- 2) ワックJ.デブリ(RIローレ-財団管理委員会委員長)よりメッセ
- 3) 吹田江坂 RC より春のライラ終了のお礼状
- 4) WCS 活動最終報告書提出依頼
- 5) 「次期政権の外交課題と日米関係フォーラム」
出席依頼 6 / 26 (日)
- 6) 次期社会奉仕活動推進計画報告の依頼
- 7) 大阪住吉 RC の活動「こども達に贈ることば」
趣意書とポスター配布、掲示
のお願い(11枚、事業所等に掲示ください)
- 8) 2006~07年度「少年少女ココキャブ」の案内
8 / 4~6 (金~日)
於: 寝屋川市野外活動センター

2、茨木市、他RCよりの依頼事項

- 1) 茨木市献血推進協議会総会の案内
5 / 26 (金) 於: 保健医療センター

委員会報告

規定情報委員会

長澤利治委員長

「第3回情報集会」の案内

日時: 6月7日(水)午後6時30分~

場所: ホテル日航茨木大阪「桃李」

多数ご参加ください。

「生涯青春」の出版

お配りしました「生涯青春」を書くにあたっては、1年がかりで資料を集めるなど、大変苦労しました。ある出来事が何年何月だったか資料を確かめるにも時間がかかります。試行錯誤を繰り返しながら、ようやく一部の印刷が本日に間に合いました。私は3月2日生まれ(1919年)ですので、本の出版は男の節句を目標にしたのです。

出版に踏み切るに際しては、当クラブの大木令司元会員に背中を押してもらいました。また、息子の嫁たちから「いろいろ旧い話を聞いても覚えられないので書いてほしい」と言われたことも、書き始めるきっかけになりました。

文字による記事だけでは面白くないので、できるだけ写真を使いました。面白いエピソードを入れ、郷土の行事なども織り込むようにしました。単に私のことだけでなく、郷里の人たちの歴史なども兼ねる形で、年表も作っています。

老年期は「白銀」

本と一緒に配りました短冊も時間をかけています。単なる挨拶状としてすぐ捨てられてしまうのではなく、長く憶えてもらおうと思ったからです。文章の内容だけでなく、文字、サイン、絵など、何度も書いたり消したりしました。

私は絵が好きなので、短冊の歌に色を読み込みました。生まれた時は白玉(はくぎょく)。欲もなく天真爛漫なさまです。少年時代は5月の若葉。すくすくと伸びてゆく姿です。青年期は群青(ぐんじょう)。空にしても海にしても群青はすばらしい。

壮年期は紅(くれなゐ)。元気があって事業をするにも油の乗ってくる時期。会社で一番よく働く時代です。熟年期は黄金(こがね)。会社でいえば40、50

歳。役員とかいいところ。老年期は大体 70 歳以上。いぶし銀の光で、これは白銀です。

こうして色々な道を歩いてきたことを歌にしたわけです。私を支えてくれた人への感謝、これはもう絶対です。偉くなった人の中には自分ひとりで偉くなったようなことを言う人がいますが、本当は皆のために生かしてもらっているのです。世の中に感謝しなければいけません。

短冊の絵を考えたのは、高槻・芥川の堤防の上を泳ぐ多くの鯉のぼりを見たときです。5月5日の出版にうってつけだと考え、絵の練習もしました。憶えていただければ、大変ありがたいと思います。



母の介護が健康の支え

つたない人生の中で特に印象に残っていることを話します。小さいときはバスケの選手で、郡で優勝したこともありました。テニスに転向したのは、170cmのメガネをかけた男がバスケをすると、メガネが飛ばされるからです。これはだめだということで、テニスにしたのです。

大学に入るころ、胃がんの治療をしていた母親が阪大病院から京大病院に転院しました。昔の人は方角にうるさく、阪大病院は自宅からみると鬼門にあたったからです。こうした事情から、京都の大学(同志社)を選びました(1938年入学)。

当時、兄や姉は軍隊とか東京とかで、残っているのは私だけでした。京大病院へ食べ物を届けるなど、いつも母のところに通っていました。5人兄妹の中で私が大病もせずこられたのは、母を最後まで介護したことが健康の支えになったのかもしれないと、この歳になって痛感しています。

同志社でバイオリンにトライ

学生時代はいろいろなことをしました。

バイオリンを始め、同志社のオーケストラに入りました。当時、交響楽団があったのは京大と同志社くらい。私は下手で第2バイオリンでしたが、ベートーベンの田園を演奏したこともあります。いい音

が出せず、「のこぎりの目立て」をしていました。

バイオリンでは天才少年といわれた宮本政雄さんがリーダーでした。彼ほどの人は東京芸大でもよかったです。父君が近江兄弟社の重役で山科に家があり、そこから同志社に通っていたのです。宮本さんは関西交響楽団で朝比奈隆氏の後任の指揮者になりました。

バイオリンもテニスも腕を使います。テニスをする指が動かなくなり、どちらか選ばなければならなくなりました。バイオリンは才能がないので、音楽は聴くだけにしようと決め、バイオリンを捨てテニスに入っていったのです。

昼はテニス、夜は謡

この間、書道部を発足させました。大学生は字が下手なので書道をしようということで始めたのですが、もう70年経ちました。私が最初にリーダーを務めた部です。

謡(うたい)も始めました。知人に鳩居堂関係の学生がいて、書道や謡に関心を持ったのです。謡は京都大丸の前にある先生の家で3年間通いました。これだけ続いたのは先生の奥さんが美人だったため、むしろ夫人を見に行っただけというのが実情です。

昼はテニス、夜は謡で忙しく、毎晩家に帰るのは9時か10時。よくやったものだと思います。家から通っていたので、それ以降悪いことはしませんでした。多くの部に関与することができました。テニスでは「コートに咲くロマン」もありました。

テニスは高島屋(1946年入社)には軟式庭球部しかなかったの、硬式もつくりました。飯田慶三会長にお願いして、学生ランキング上位の3人を採用してもらいました。こうしたことが実って、実業団のベスト4に入ったこともあります。

高島屋で労組一本化に苦勞

高島屋では戦後、労働組合が結成され、「飯田家(オーナー)打倒」や待遇改善を求め随分活動しました。難波の店を1週間閉めたこともあります。ところが顧客の奥様がたから「ストをするような店とは縁を切る」と外商部の取引を断られ、予算を達成できない事態になりました。

鉄道とは違い、小売業のお客はどこでも買えるのです。ストの経験を踏まえ、百貨店の使命について、つくづく考えるようになりました。

労務課長(1958年就任)としては、2つの組合を一本化するのに苦勞しました。組合が2つあると職場を分断し、大変困ります。昼の交渉だけでなく、夜



も双方の書記長や委員長と毎日のように酒を飲みながら話すなど、随分苦労しました。

年中無休の企画部長時代

企画部長(1963年就任)時代は色々な催しがあり、1年のうち休みは2日といった状態が3年間続きました。日曜日に催しが終われば次の段取りのため翌日の月曜日(休業日)も出勤する。年末は12月31日まで営業し、1月3日から営業を始めるので2日は準備。年中休みなしでした。

特に文化催しでは、有名な先生方のお相手をしなければなりません。そのため月曜日も出勤して、夜も一緒に食事したりといったことの連続でした。

企画部には企画課、催し課、商品試験室などがあって、営業的な行事や対外的な活動も企画部の仕事でした。この時代は本当にこっぴどく使われた。それだけに懐かしいと同時に、得たものも大きいと思います。

秘書部長(1969年就任)の時代は飯田慶三会長と飯田新一社長の仲を取り持つのに苦労しました。一方にかわいがられると、他方はいい顔をしない。両方に仕えるのは大変難しい仕事でした。

社長は御曹司なので、すごく怒る。社長の機嫌が悪い時は、役員は「よそへ行っているから」などと言って、私に代弁させる。そうすると私が叱られるといった具合で、叱られ役ばかりでした。軍隊で一度は死んだ身なので、何を言われても殺されはしないだろう、などと考えていました。

本にはいろいろ書いてあります。どうかお読みただいて、私の意のあるところをお汲み取りいただければ幸いです。

卓話：番外編

例会終了後、橋本淳会員は約30分間、残った会員とお茶を飲みながら歓談し、卓話「番外編」を続け

られました。

番外編は、陸軍の幹部候補生として台湾にいたときに橋本氏の当番兵になったテノール歌手・柴田睦氏との再会、画家・池田満寿夫氏夫妻との交友、鳥取で知り合った女学生との交際 等々、活字にしにくい話も含めて、人生経験と交友関係の豊かな橋本淳会員ならではの話でした。

柴田睦氏については、橋本会員が上官に進言し、嘉儀でリサイタルが実現したとのこと。戦後、再会して一生付き合いが続きましたが、橋本会員の幅広い交友関係の背景には、人間関係を大切に作る姿勢があります。歓談の中で、「人を大事にしなければいけない。自分だけ得しようと思っただけではだめ」と言われていたのが印象的でした。

橋本氏は音楽、書道、謡、テニス、ゴルフなど、多方面で才能を発揮されてきましたが、様々な分野での活動がその後の長く幅広い交友関係につながっているようです。著書「生涯青春」の中でも多くのひととの触れ合いが描かれ、「一期一会」を大切にされてきたことがよくわかります。著書の副題は「事業は人、人はこころ次第」です。

池田満寿夫氏との交際について語られた際に、「高島屋というバックがあるからいろいろな人が大事にしてくれる。自分だけの力でできたと思ったら大間違い」と言われていたのも記憶に残りました。卓話や著書の中で、橋本氏の高島屋に対する「愛社精神」はなみなみならぬものがあると感じました。よく働かれたのだと思います。

鳥取の伝馬船に同乗した女学生から何通もの「恋文」を受け取った話をはじめ、人生経験豊かな橋本会員ですから、艶っぽい話も結構あるようですが、詳細について関心のある方々は直接お聞きください。橋本会員が米寿に満足せず、いつまでも元気でいらっしやることをお祈りいたします

(掛谷記)



ニコニコ箱

ホームクラブ皆出席 秋山、久保、松尾
長澤、中西、野田、朱、多田
橋本様おめでとうございます 秋山
米寿記念、生涯青春の卓話をさせて頂いて皆様に
感謝致します 橋本(淳)
米寿記念の本を頂いて 橋本(秀)
生涯青春の本を頂いて 日野岡
橋本淳会員、米寿と出版おめでとうございます
掛谷
橋本先輩の米寿をお祝い申し上げます 笠原
橋本淳会員米寿おめでとうございます。益々若く
なれますように！！ 久保
橋本淳会員、生涯青春のよろこびに 倉内
橋本淳会員、貴重なお話ありがとうございます
松尾
橋本淳さん米寿のよろこびに 長澤
橋本淳会員、米寿おめでとうございます 中西
橋本淳会員より記念誌を頂いて 野田
橋本会員米寿おめでとう、老いて益々盛んなり
元気にいきましょう。「生涯青春」を頂いて 大森
橋本様「生涯青春」有難うございます 岡野
橋本淳会員より米寿記念の本を頂いて 坂井
橋本淳会員より卓話と本を頂いて 朱
吉田様お世話になりました。遅刻お詫び 朱
橋本淳会員米寿お祝い 多田
米寿のお祝いの本を頂いて 高島
橋本淳会員、米寿おめでとうございます 辰己
橋本淳会員米寿おめでとうございます。生涯青春
の記念の本を頂いて 山田
橋本淳会員米寿おめでとうございます「生涯青
春」の本を頂きありがとうございます 吉田

本日計 90,000円
累計 1,825,046円

次回卓話

「【要約】邦文定款第4条への疑問」

東大阪みどりRC

定款第4条問題検討委員会